

## インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ: 1件(前月比0.2, 前年比0.3)でした。1月をピークとして連続して減少しており、8月からは一桁の値で推移しています。今後は例年並みに冬期にかけて増加していくものと推測されます。

## 小児科定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が48医療機関から50医療機関に増えました。

## (全体傾向)

2864件(前月比0.9、前年比1.1)であり、感染性胃腸炎1147件、RSウイルス感染症443件、咽頭結膜熱298件と手足口病216件が大きく占めています。前月比及び前年比は、ともに大きな変化はないようです。RSウイルス感染症が連続して増加してきており、今後の動向に注意が必要です。

## (疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症: 443件(前月比2.6, 前年比0.9)と本年度も昨年度と同様に8月から流行期に入っているようで、今後さらに大きく増加していくことが推測され、今後の動向に特に注意が必要です。人吉(32.0)、水俣(17.0)、菊池(14.6)、八代(13.8)、宇城(11.5)が多いようです。

※( )書きは1ヶ月の報告数を定点数で割った値。以下同じ。

2. 咽頭結膜熱: 298件(前月比1.2, 前年比2.2)。7月からは連続して増加しており、9月は本年度では最高値となっています。前年比(2.2)であり、例年よりは大きい値で推移しており、今後の動向に注意が必要です。山鹿(49.0)が特に多いようです。
3. A群溶連菌咽頭炎: 154件(前月比0.8, 前年比1.7)。5月をピークとしてその後は減少に転じています。9月は前月比(0.8)と大きな変化はありません。前年比(1.7)であり、昨年よりは大きい値で推移しているようです。菊池(10.4)が多いようです。
4. 感染性胃腸炎: 1147件(前月比1.0, 前年比1.4)でした。6月からは大きな変化がなく推移しており、例年並みの推移のようです。例年は秋から冬にかけて増加していきますので、今後の注意が必要です。菊池(68.2)が特に多いようです。
5. 水痘: 100件(前月比0.6, 前年比0.8)でした。5月をピークとして以後は連続的に減少しています。本年度も例年並みに、夏から秋にかけて少ない値で推移しているようです。
6. 手足口病: 216件(前月比0.5, 前年比3.2)でした。7月がピークとなり、以後は連続して減少しています。前年比(3.2)であり、昨年よりは高い値で推移しています。菊池(16.6)が特に多いようです。
7. 伝染性紅斑: 6件(前月比2.0, 前年比0.8)で本年度は少ない値で推移しています。
8. 突発性発疹症: 168件(前月比0.7, 前年比0.9)。例年と同様に推移しているようです。

9. 百日咳： 0件(前月比―、前年比―)。本年度も例年並みに少ない値で推移しています。
10. ヘルパンギーナ： 109件(前月比0.3、前年比0.8)と例年と同様に7月をピークとして連続して減少しています。前年比(0.8)であり、大きな変化はありません。天草(13.0)が特に多いようです。
11. 流行性耳下腺炎： 7件(前月比0.3、前年比0.1)で前月比、前年比ともに減少しています。本年度は、最近3年間では一番低い値で連続して推移しています。

## 眼科定点

1. 急性出血性結膜炎： 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎： 報告数73件(前月比1.7、前年同月1.1)と増加しています。地区別では熊本59件と従来どおり最も多い報告数ですが、有明地区も10件の報告があり、注意が必要と思われます。年齢別では、20～39歳に多発していますが、しばらく少なかった乳幼児層にも広がりが見られます。

## STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

本年1月より、定点数が増加したため、前年とは正確に比較できません。

1. 性器クラミジア感染症：報告数59件(前月比 1.1、前年同月比 1.9)で、前月比、前年同月比とも増加しています。男女別は、女性が40件と圧倒的に多く見られています。年齢別は、女性は15～34歳に34件と多く、男性では15～29歳に12件と多く見られています。地区別は、熊本35件と圧倒的に多く、次いで御船、有明に各8件、八代4件、菊池2件、人吉、宇城に各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症：  
報告数17件(前月比 1.0、前年同月比 0.7)で、前月比では同数、前年同月比では減少しています。男女別は、女性が9件と僅かに多く見られました。年齢別では、女性では20～70歳以上、男性でも20～69歳と幅広く見られています。地区別は、熊本が11件と圧倒的に多く、次いで菊池3件、宇城2件、八代1件でした。
3. 尖圭コンジローマ： 報告数は5件(前月比 1.3、前年同月比 0.7)でした。前月比では増加、前年同月比では減少しています。男女別は、女性が3件とやや多く見られています。年齢別は、女性では20～24歳に2件、30～34歳に1件、男性では30～34歳、35～39歳に各1件見られています。地区別は、熊本3件、御船、宇城に各1件でした。
4. 淋菌感染症： 報告数は11件(前月比 0.6、前年同月比 3.7)でした。前月比では減少、前年同月比では著しく増加しています。男女別は、男性に8件と多く見られています。年齢別は、男性は30～34歳に4件と多く見られ、女性では20～29歳に見られています。地区別は、熊本5件、有明2件、御船、八代、人吉、宇城に各1件でした。

## 基幹定点

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎: 報告数1件(前月比 1.0、前年同月+1)でした。
2. 無菌性髄膜炎: 報告数11件(前月比 1.2、前年同月比 5.5)でした。  
昨年よりも多い傾向が続いており要注意。
3. マイコプラズマ肺炎: 報告数6件(前月比 0.5、前年同月比 0.4)でした。減少傾向。
4. クラミジア肺炎: 報告数0件(前月 -1、前年同月 -1)でした。

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症:  
報告数30件(前月比 1.2、前年同月比 0.5)でした。13件(43%)が70歳以上でした。昨年より少ない推移が続いています。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症:  
報告数2件(前月比 0.5、前年同月比 0.3)でした。  
昨年より少なくなっています。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症:  
報告数0件(前月、前年同月と変わらず)でした。
4. 薬剤耐性アシネトバクター感染症:  
報告数0件(前月、前年同月と変わらず)でした。

## 届け出対象感染症

- 1類感染症: 報告はありませんでした。
- 2類感染症: 結核:24件
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症:18件
- 4類感染症: 日本脳炎:2件  
レジオネラ症:1件
- 5類感染症: ウイルス性肝炎:1件  
侵襲性肺炎球菌感染症:1件  
劇症型溶血性レンサ球菌感染症:1件  
バンコマイシン耐性腸球菌感染症:1件  
梅毒:1件  
風疹:1件